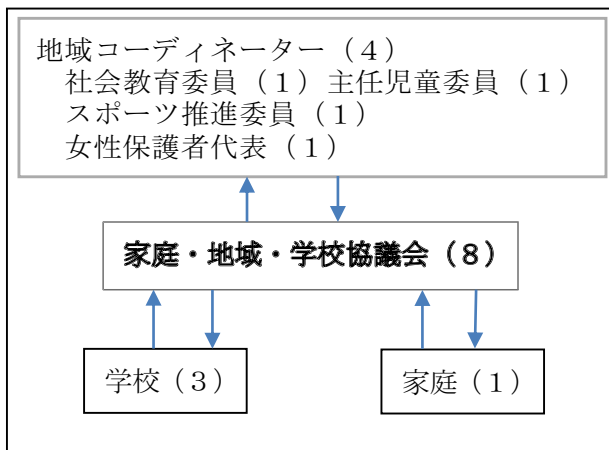


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- 第1回 (6月20日)
家庭・地域・学校協議会の主旨説明
スクールプラン説明, 教育計画
- 第2回 (11月20日)
学校教育活動への評価
*小中合同協議会の実施
- 第3回 (2月21日)
学校評価の結果と分析
・RPDCAを踏まえた次年度への提言

(3) 協議会における成果と課題

協議会においては、出された課題について熱心に討議していただき建設的な意見を伺うことができた。特に、今回行った花はす早朝マラソン大会におけるうちわ配布については、協議会の委員の方が関係機関に働きかけていただき、生徒会活動の後押しをしてくださった。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域の人や自然とのふれあいの中で、地域の良さを感じながら、地域をよりよくしていこうとする気持ちを育み、地域の一員としての誇りや愛着を持って、将来にわたって「ふるさと南条」を愛する生徒を育てる。

(2) 活動の実際

①地域ボランティア活動

この活動は、生徒会が企画・運営をする地域ボランティア活動として長い歴史をもち本校の伝統的な行事である。地域にある公共施設や福祉施設、日頃から使っている施設、お世話になったことのある施設などを生徒が選び、清掃活動を中心とした活動を行った。

活動は、学級ごとに、JR南条駅や南条公民館など6か所で行った。ガラス拭きや床掃除などの活動の他にも、くもの巣とりやスリッパ掃除など、その場で生徒が



気付いた活動も行った。日頃の感謝の気持ちとこれからも使い続ける施設を大切にしていこうとする気持ちを高めることができた。

②花はす早朝マラソン大会ボランティア及びうちわ配付

地域の一大イベントである町主催の花はす早朝マラソン大会において、生徒の自主的なボランティア活動を行った。全校生徒の半数以上が参加を希望し、受付やランナーへの飲料水の手渡しなど

(様式3)

を行った。

また、マラソン大会は県内外の数多くのランナーが集まる好機でもあるので、南条のよさをアピールすることができることを考えようという活動を行った。昨年度は、しおりを作って配布と考えていたが、大会が中止になったため当日は配布できなかった。今年度は、生徒会を中心にアピールの方法を再検討し、うちわ作りを行うことになった。生徒会から全校生徒に、南条の良いところの絵を募集し、うちわ作りを行った。

うちわの作成に当たっては、生徒一人ひとりが、まず自然や施設・人・行事など南条の良い所を改めて考え、ふるさとを愛する思いがしっかりと伝わることをイメージしながら、絵に表現した。生徒全員から集まった作品の中から、生徒会が数点を選びうちわのデザインにした。

完成したものは、マラソン大会当日にゴール付近で走り終わったランナーに手渡しした。うちわは、千枚用意したがあっという間になくなった。すべてのランナーには配ることができなかったのが残念だったが、翌日にもうちわのことを問い合わせる電話があり大変好評だったことが分かった。生徒のふるさとを思う気持ちが、多くの人に伝わったのではないかと思う。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・ ボランティア活動における、活動内容や諸注意についてのアドバイス
- ・ うちわ作りにおけるアドバイス
- ・ 地域や保護者、関係機関との連絡調整

(4) 特に工夫した事項

「地域をよりよくしていこう」「地域の一員としての誇りや愛着を持って」というねらいを生徒が十分理解した上で、計画や準備に当たるようにしたため、生徒が主体的に取り組むことができた。特に、うちわ作りにおいては、一人ひとりがまず、南条の好きなところを改めて考える機会を持つことで、生徒自身がふるさとを見つめ直すことができ、ふるさとを愛する思いを深くすることができた。

(5) 成果と課題

地域の行事を生かした社会貢献活動を考える上で、マラソン大会を生かすという考え方は、学校にとっても地域にとってもメリットが大きい。中学生ができることという中での「うちわ作り」は、自分たちの思いを表現する場としてはとても良いツールであったと思う。

このような活動を通して、生徒の中には「もっと地域を良くしたい。」「こうすればもっと良くなるだろう。」などと考えをもった人もいないのではないかと思う。しかし、その生徒たちの声を十分に拾いきれていない部分がある。そのような声をしっかりと聞き、次年度に向けての方策を考えていきたい。